

学校いじめ防止基本方針

西尾市立幡豆中学校

1 いじめの防止についての基本的な考え方

(1) いじめについての基本的な認識

いじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である。また、どの生徒も被害者にも加害者にもなりうるものである。

(2) 学校がいじめに対する基本姿勢

教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。「いじめの防止」(未然防止のための取組等)に始まり、「早期発見」(いじめの兆候を見逃さない・見過ごさないための手立て等)、「いじめに対する措置」(発見したいじめに対する対処)の3つについて、対策を講じ、いじめのない学校を目指す。

(3) 育てたい生徒の力や教師の役割

何より学校は、生徒が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場であってはならない。生徒一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身につけることができる学校づくりに取り組んでいく。そのために、どの子も楽しくわかる授業を目指して「**授業のユニバーサルデザイン**」について研究に取り組む。そうした中で、生徒が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

2 いじめ防止対策組織(名称:いじめ・不登校・問題行動対策委員会)

(1) 「いじめ防止対策組織」の役割

①「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認

- ・学校評価アンケートを行い、学校におけるいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討していく。

②教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。
- ・いじめアンケートや教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効あるいじめ防止対策に努める。

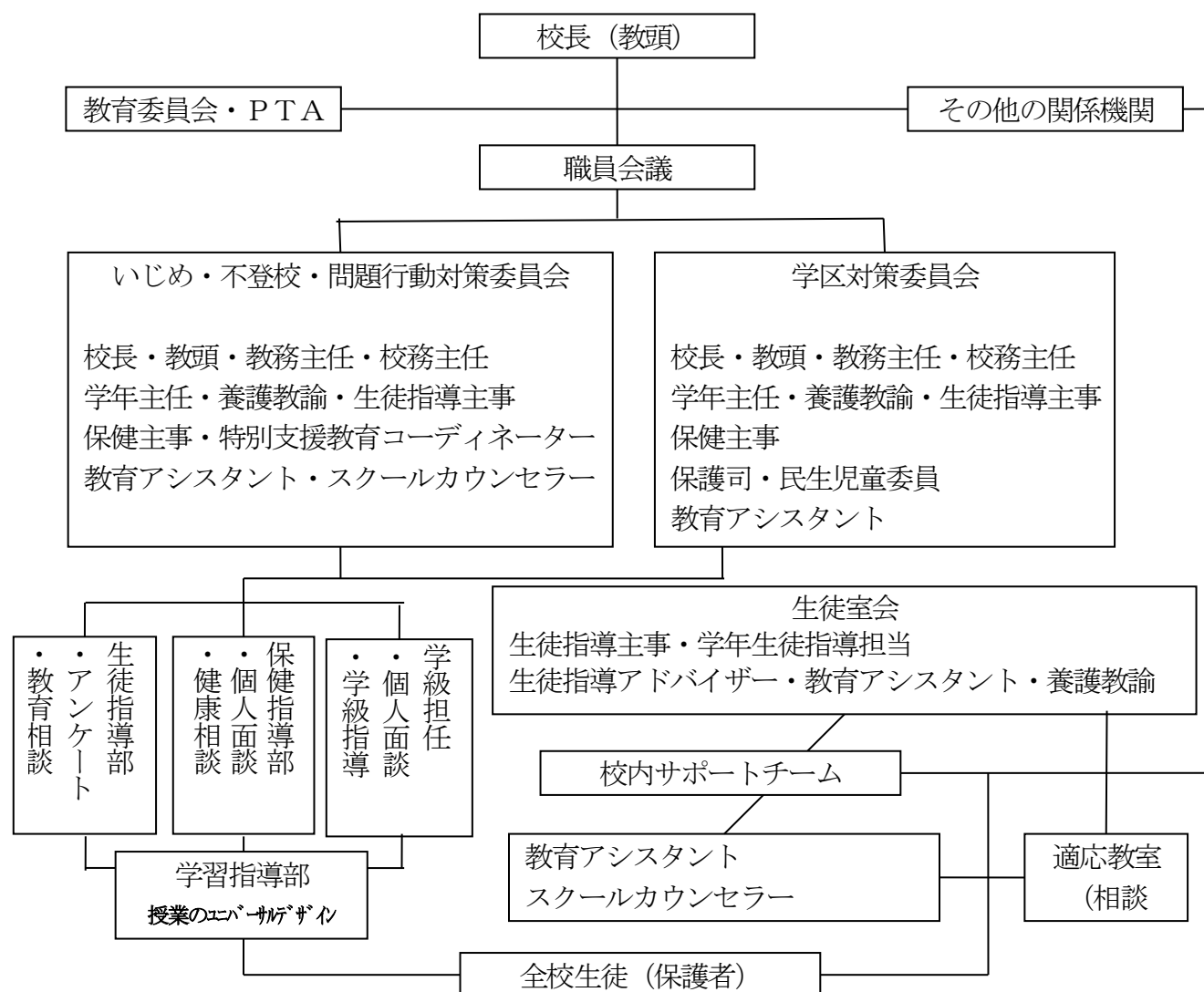
③生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

- ・随時、学校だより等を通して、いじめ防止の取組状況や学校評価結果等を発信する。

④いじめに対する措置(いじめ事案への対応)

- ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。
- ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
- ・問題が解消したと判断した場合も、その後の生徒の様子を見守り、継続的な指導・支援を行う。

(2) 組織図



3 いじめの防止等に関する具体的な取り組み

(1) いじめの未然防止の取組

- ①生徒同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。
- ②生徒の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。
- ③教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。
- ④情報モラル教育を推進し、生徒がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないよう継続的に指導する。
- ⑤「西尾市学校総点検の日」には、生徒一人一人のよりの確な現状把握に努め、いじめ問題に対する意識の高揚を図る。

(2) いじめの早期発見の取組

- ①いじめアンケートや教育相談を定期的に実施（年3回）し、生徒の小さなサインを見逃さないように努める。
- ②教師と生徒との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。
- ③いじめ相談電話等、外部の相談機関を紹介し、生徒が相談しやすい環境を整える。

(3) いじめに対する措置

- ①いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校・問題行動対策委員会」を中心に組織的に対応する。
- ②被害生徒を守り通すという姿勢で対応する。
- ③加害生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- ④教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家や、警察署、児童相談所等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- ⑤いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。
- ⑥ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

4 重大事態への対応

- (1) 重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告をし、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。
- (2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ・不登校・問題行動対策委員会」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。
- (3) 調査結果については、被害生徒、保護者に対して適切に情報を提供する。

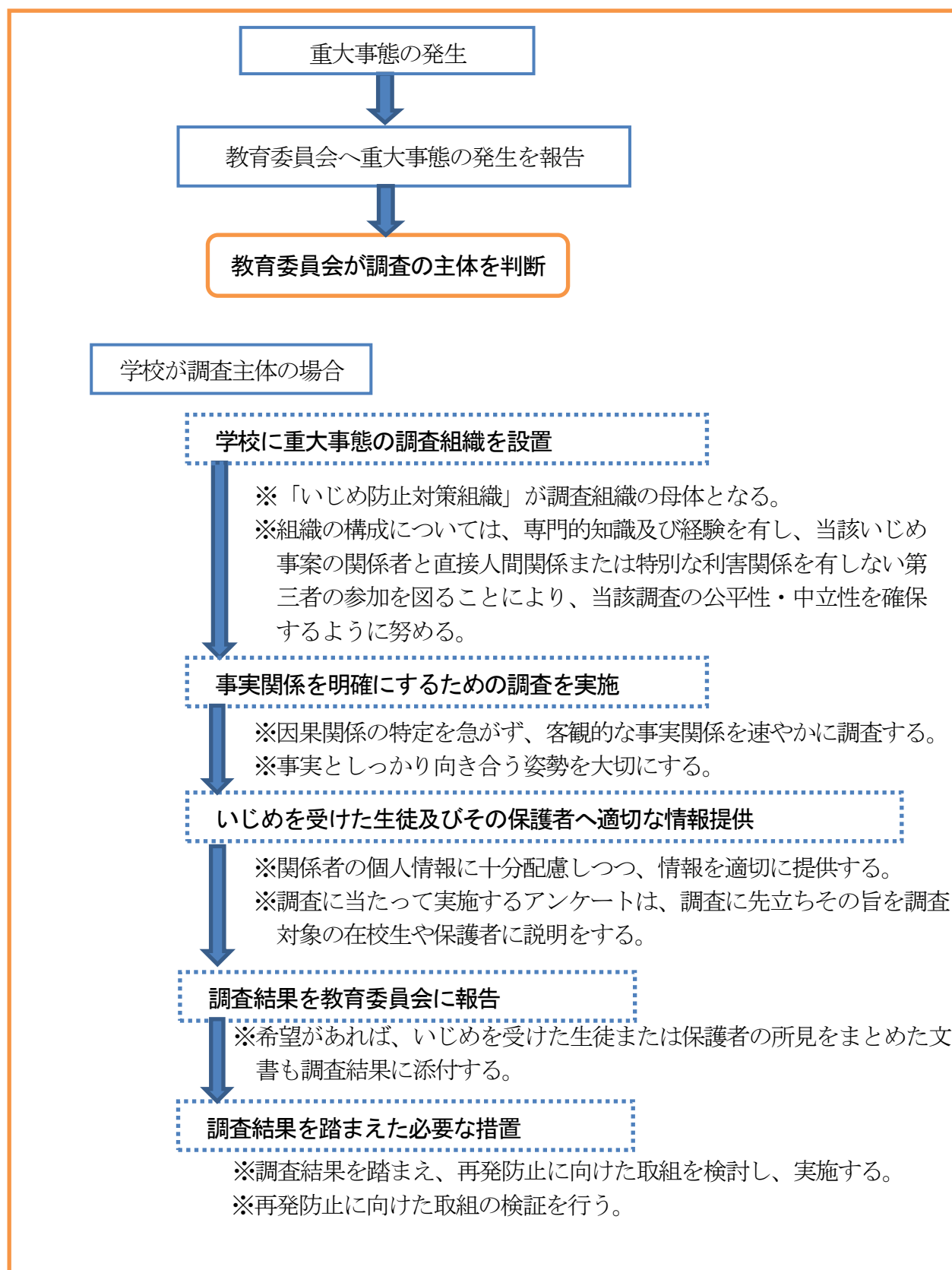
5 学校の取組に対する検証・見直し

- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、PDCAサイクル（PLAN→DO→CHECK→ACTION）で見直し、実効性のある取組となるよう、努める。
- (2) いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取組評価及び保護者への学校教育アンケートを年に2回実施（7月、12月）し、「いじめ・不登校・問題行動対策委員会」でいじめに関する取組の検証を行う。

6 その他

- (1) いじめ防止に関する校内研修を計画し、生徒理解やいじめ対応に関する教職員の資質向上に努める。
- (2) 「学校いじめ防止基本方針」は4月に保護者へ配布する。
- (3) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

【重大事態の対応フロー図】



<年間計画>

	いじめ・不登校・問題行動 対策委員会	未然防止の取組	早期発見の取組	保護者・地域との連携
4月	P ↓ D	○「学校いじめ基本方針」の内容の確認	○いじめ相談窓口の生徒保護者への周知 ○身体測定	○家庭訪問
5月		○職場体験学習（2年） ○修学旅行（3年）		
6月	↓ C ↓ A	○現職研修① 「心のアンケートから生徒指導を考える」	○「心のアンケート（いじめアンケート）」 ○教育相談週間	○学校保健委員会 部活動保護者会 部活動参観
7月		○全教職員による「取組評価アンケート」の実施→検証		○個人懇談会 ○学校評議員への学校行事・授業の公開 ○保護者への学校評価アンケート
8月	↓ P ↓ D	○中間評価→検証		
9月		○体育大会応援合戦 全校種目（異年齢集団活動）	○身体測定	
10月	↓ C ↓ A	○現職研修②（ケーススタディ）		
11月		○合唱コンクール	○「心のアンケート（いじめアンケート）」 ○教育相談週間	
12月	↓ P ↓ D	○全教職員による「取組評価アンケート」の実施→検証	○人権週間（講話） ○赤い羽根募金活動	○個人懇談会 ○保護者への学校評価アンケート
1月		○全校レク（異年齢集団活動） ○保健指導（命の大切さ）	○身体測定	
2月	↓ P ↓ D	○自己評価	○「心のアンケート（いじめアンケート）」 ○教育相談週間	○学校評議員への学校行事・授業の公開
3月		○学校関係者評価の結果を検証し、「基本方針」の見直し		○学校関係者評価委員会で「自己評価」の評価を行う。
通年	↑ P	○校内のいじめに関する情報の収集 ○対応策の検討	○集会における校長講話 ○道徳教育、体験活動の充実 ○わかる授業の充実	○健康観察の実施 ○SCによる相談 ○生活ノート

※いじめが発生した場合の対応については、関係する職員で共通理解を図りながら、対応していく。